令和４年７月２９日

令和４年度 氷見市教育総合センターだより 第３報

魅力ある学級づくり研修会　　６月８日（木）

講師：富山県教育カウンセラー協会　代表　水上 和夫　先生

＜ウォーミングアップで笑顔＞

参加者によるウォーミングアップの後、Q-Uデータの見方や手立て等について学びました。また、魅力ある学級づくりのポイントとして学級集団の力学や「２－６－２の法則（普通に頑張っている６割の子供に注目する）」等を教えていただきました。**「笑顔を意識することで学級づくりや授業づくりがうまくいく」「教師の笑顔は安心感を生み、学級の温かい関係づくりの原動力となる」**など、笑顔の大切さを力説されました。明日からの学級づくりに生かせるヒントがつまった研修会となりました。

＜参加者の声＞

○笑顔を忘れていたような気がします。初心にかえって「笑顔力スキルアップカード」を活用していこうと思いました。

○「普通にやっている６割の子供たちへの関わり方を変えなくては」と思いました。子供たちから信頼される教員になれるよう、笑顔や声かけを意識していきたいです。

第１回若手教員研修会「児童生徒理解」　　７月５日（火）

講師：富山県総合教育センター　客員研究主事　舘野 智子　先生

「子供のメッセージを受け取っていますか」というテーマで、富山県総合教育センター 舘野智子先生のお話を聴きました。

コミュニケーションの特徴として**「あらゆるコミュニケーションは、『内容』と『関係性』を伝える」、「非言語メッセージは、人の『内面』を表しやすい」**ことや、子供の言動には必ず理由があり、**「何が子供にそうさせているのか」**をよく考え、子供を取り巻く状況全体を捉えようとすること」の大切さを教えていただきました。

＜舘野先生のお話＞

また、話を聴くために大切なことは、スキルでも理論でもなく、**「あなたのことを知りたいという気持ち」**と**「一緒に苦しむ覚悟」**であると話されました。

研修会後半は、昨年度まで教育相談活動に携わっておられた教育総合センター山口所長と舘野先生との対話形式（ミニ討論会）で進められました。ご自分の経験を基に具体的に語られる内容は、教育相談を通して多くの保護者や子供たちと接してこられたからこその重みのある言葉であり、若手教員にとって気付きの多い、心に響く時間となりました。

＜対話形式(ミニ討論会)で＞

＜参加者の声＞

○「問題行動は、その子にとったら適応行動となっているかもしれない」という考えを、今までもったことがなかったので、それらも視野に入れて子供たちに接していこうと思いました。

○不適応行動ばかり見るのではなく、裏に隠れている本心をしっかり捉えていきたいです。

○一人一人に少しずつでも時間をかけて、「一人一人とつながっていきたい」「自分自身の言動を振り返りたい」と思いました。

授業力向上研修会　　６月１７日（金）

講師：金沢学院大学教育学部教育学科　教授　多田 孝志　先生

今年度、富山県教育委員会が新規事業として推進する「令和のとやま型教育推進事業」の研究委託を受けました。研究課題「主体的・対話的に学びを深める児童生徒の育成」に向けて、若手教員や希望者を対象として、児童生徒が意欲的に学習に取り組む学級づくり、授業づくりについての研修会を行いました。

参加者が児童生徒役となり、講師による模擬授業をしていただきました。あるアフリカの国で現地の人にマウンテンゴリラが殺されている事実から解決策を考える課題、日本の食料自給率を高める解決策を考える課題等を提示され、参加者による話合いが仕組まれました。異質・多様な他者との関わりをもたせるために、参加者の座席やグルーピングは、日頃から面識や交流のない者同士となるように設定されました。

授業では、「隣同士で話し合ってごらん」と、何度もペアで話し合う機会や、考えるための多様な視点をもたせる言葉かけ、他グループの考えをボードで見せ合う機会を設けるなど、参加者に考えをもたせ、思考を深める手立てを示されました。また、参加者の発言に対して常に励ましや称揚の言葉かけとともに、話合いの意図等が説明され、参加者の学びの実体験から子供の心理が分かるように授業を進められました。

異質・多様な他者との共生社会が現実化しているこれからの時代には、日本の学校教育とともに私たち教師には、多様な他者との協働・共創できる資質・能力・技能をもつ児童生徒の育成が求められていると強調されました。

＜参加者の声＞

○子供になりきって、正解のない課題について考える模擬授業が楽しかったです。毎時間の授業で行うのは難しいことですが、ぜひ取り入れてみたいと思いました。

○私たち教師の役割、使命について改めて考えさせられました。異質・多様な他者との関わりを恐れ、話合い活動を嫌う生徒たちの不安を取り除く手立てを講じ、主体的共同学習へと導きたいと感じました。

○他者との関わり、対話の重要性を改めて感じることができました。対話についての講話を、更に詳しく聞いてみたいと思いました。

ＩＣＴを活用した授業づくり研修会　　６月２８日（火）

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科　准教授　長谷川 春生　先生

【湖南小学校】 4年国語科 「熟語クイズをつくろう」　授業者：佐伯 美緒 教諭

○ねらい

・楽しめる熟語クイズをプログラムしたり解き合ったりすることを通して、漢字の組み合わせに対する理解を深める。

○学習の様子

・プログラミングを通して熟語の組み合わせについて考えることで、児童は意欲的に学習に取り組んでいた。

・自分のクイズを増やしたり友達のクイズを解いたりと、端末を活用して一人一人が自分に合った学習を進めていた。

○協議会（Teams の Whiteboard を使ってグループごとに意見をまとめ、協議に生かした）

・端末を活用したことで、個別最適な学びにもつながっていた。

・教科学習として考えると、クイズの正誤だけではなく、意味やそう考える理由等も取り上げると、学びが深まったのではないか。

○指導助言

・国語科の熟語の問題づくりをプログラミングが後押ししてくれていた。

・漢字等を調べたいときに教科書、辞書、端末等から自分で方法を選んで調べていたのは、情報活用能力を育むという点でよかった。

・教科の専門性を考えるとプログラミングを取り入れにくいかもしれないが、中学、高校で学ぶことを考えると、小学校でプログラミングに触れる機会をつくってもらいたい。

第１回　氷見市いじめ問題対策連絡協議会　　６月２３日（火）

「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」は、学校、教育委員会、関係機関及び団体が連携し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決を図るために、氷見市いじめ問題対策連絡協議会設置要綱に基づいて、年２回開催しています。本委員会の委員長である矢谷義一校長先生（小学校長会長）に司会をお願いし、市内のいじめ問題の状況等について協議しました。委員の皆さんからは、次のような意見が出されました。

- 現在学校では、児童生徒へのアンケート調査や個人面談、ＳＣ等との面談等、多面的な児童生徒理解を心がけている。生徒指導委員会の定期的な開催やサポートシートのデータ共有等を行い、教職員間の情報共有を密にするようにしている。
- 授業づくりや人間関係づくり、居場所づくり等、いじめを生まない学校づくりに取り組んでいる。些細なことも疑いをもっていじめを積極的に認知し、チームで対応するようにしている。
- いじめ問題の中で生命に関わることや明らかな犯罪行為はすぐ警察が介入する。法に触れないことは学校に連絡して対応を検討する。学校で対応に困ったら、いつでも警察に相談してもらえたらと思う。
- 市社会福祉協議会では、市役所内に「ふくし相談サポートセンター」を置き、あらゆる困り事に対応している。子供の居場所づくりや学習支援、集団活動等にも取り組んでいる。
- 人権擁護委員会では、「ＳＯＳミニレター」を児童生徒に配布し、悩み事を郵送で受け付けている。学校でも周知し活用してほしい。また、「人権教室」を開催し、紙芝居等を使って啓発活動を行っている。
- ＰＴＡでは、新入生の保護者対象の親学びに力を入れてきた。子供たちの学習環境を整えるため、今年は新たな取組も取り入れてみたい。
- いじめ防止対策に力を入れていくことが大切だ。具体の事実を示して児童生徒に考えさせることで心を育てられないか。思いやり、生命が大切、違いを認める心をどう育てるかがポイントだ。
- 今後も関係機関が連携協力し、地道に対策を進めていくことが大切だ。

教育委員会事務局として、協議会での貴重な意見や提案を参考にし、関係機関等との連携を一層深め、いじめ問題への対策を推進していきたいと考えています。各学校においても、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を着実に推進していただきますよう、お願いいたします。

生徒指導連絡会　　６月２９日（水）

生徒指導上の諸課題に関する情報交換等を通して、指導・支援のより一層の充実を図るため、各校の生徒指導主事の参加を得て、「生徒指導連絡会」を開催しました。今回は、県教委作成のリーフレット「不登校児童生徒への支援の在り方について」を使い、学校づくりのポイントや一人一人の状況に応じた支援の進め方等を確認しました。校種や校区に分かれての話合いでは、以下のような情報交換が行われました。

【小学校・義務教育学校（前期）】：ネットルールについて
- 児童が決めたメディアルールがある。メディア週間等で守っているかどうかをチェックしている。
- 昨年度、LINE の長時間利用、多額の課金というトラブルがあった。
- コロナ禍もあり、オンラインゲームの利用が広がっている。低年齢化も進んでいる。見えない相手にあおられてむかついたと話すなど、影響が心配されることがある。
- メディアルールを決めても、すぐ現状に合わなくなる。子供たちの意識を高めるためにも、定期的に見直しをするとよい。

【中学校・義務教育学校（後期）】：不登校児童生徒への支援について
- 多方面からの支援で少しずつ登校できるようになった生徒がいるが、なかなか登校できない生徒もいる。
- ＳＣやＳＳＷにつなぎ、個に応じた支援を行っている。
- 適応指導教室を利用している生徒もいて、進学に向けたサポートを進めている。

今後も情報共有や連携を大切にし、市全体として一層の生徒指導の推進を図っていきます。

ALTからのメッセージ

ＡＬＴのマリッサ先生が、７月で氷見市の勤務を終えられました。今後は、母国アメリカで次のステップに進まれます。メッセージをいただきましたので紹介します。

Hello everybody! My name is Marissa del Rey and I had the opportunity to work with some of you here in Himi. This was my first and only year here in Himi teaching, and although it was short I feel very lucky and blessed to have been here and to have gotten to know all of you. Himi’s charm and beauty really grew on me this last year. From seeing beautiful Mt. Tateyama over the sea to meeting wonderful and caring people. I will forever be thankful for the experience of living here. Everyday I went to work to teach and everyday the students would make me laugh and smile. The students here in Himi are all so smart, silly, and caring and I am so happy to have met them. The teachers here as well are some of the nicest and kindest people I’ve ever met and I am grateful to you all. I will be returning to Hawaii this summer to start a new life’s journey in the tourism industry. In Hawaii we have an expression, “A hui hou” it means “until we meet again”. This is hopefully not goodbye but I will see you later on in the future! Aloha!

Photo gallery in HIMI by Marissa

新着図書の紹介

・夏季休業中は、まとまった時間がとりやすくなります。
当センターの教育図書をぜひ活用してください。
※返却は、市教委の棚入れで結構です。

図　書　名	著者・発行
○共に創る対話力　－グローバル時代の対話指導の考え方と方法－	多田　孝志　教育出版
○グローバル時代の対話型授業の研究－実践のための 12 の要件－	多田　孝志　東信堂
○新時代の教職入門 －共創型対話学習で次世代の教師はこうして養成する！－	多田　孝志　米澤　利明 北國新聞社
○対話型授業の理論と実践	多田　孝志　教育出版
○大切な人を亡くした人の気持ちがわかる本 －グリーフケア　理解と接し方－	髙橋　聡美　法研
○地域でできる自殺予防	髙橋　聡美　日本医学出版
○「走れメロス」の授業	萩中奈穂美　東洋館出版